



新 牛久ごみ ニュース

ごみを削減することで 得られる効果①

前月号で市民1人1日当たりのごみ排出量が652.9グラムと前年度に比較するとやや減少したことをお知らせしました。しかし、目標値(531.6グラム(下図参照))に達することはできませんでした。今回はごみ削減によって得られる効果を考えます。

☆今のごみ処理方法は

ごみの処理には一般的に大きく分けて「焼却」と「埋め立て」があります。市では牛久クリーンセンターで焼却処分し、焼却灰を他市にある最終処分場に埋め立てています。また、埋め立て量を削減するため、ほかの工場に搬送し、リサイクル処理しています。

ごみの処理は、牛久クリーンセンターだけで完結することができず、家庭から排出されたごみは、いくつものルートを経て処理されています。つまり、ごみを集積所に出し、目の前から消



えても無くなるわけではなく、さまざまな処理ルートを経て、適正に処理をしています。

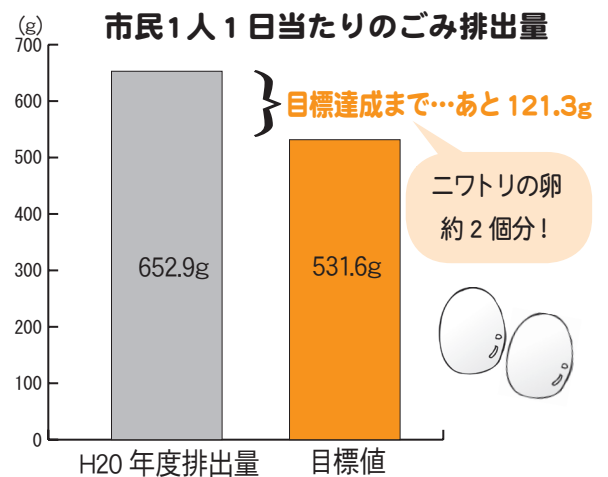
☆ごみ処理工程におけるCO₂の削減

家庭から排出される燃えるごみは、年間約1万7200トン。さらに燃えないごみからも金属などを取り除いた残りを合わせて焼却しています。焼却の際に発生する排ガスの中には、ダイオキシン類や窒素酸化物などさまざまな有害物質が含まれています。

これらの有害物質は公害対策設備を設置し、排出基準内に抑制するように運転管理に注意を払っています。

しかし、地球温暖化の原因であるCO₂(二酸化炭素)の排出量を抑制することができません。その

市民1人1日当たりのごみ排出量



ためには焼却量を減らすこと、つまり、ごみの排出量をダイエツト(減量)することが必要となります。

これまで、ごみ質分析の結果をもとに、分別による混入資源物の削減および買い物や調理の工夫による生ごみの削減により、燃えるごみの約40%が削減できるとお知らせしてきました。

これらを実行しごみ排出量をダイエツトすると、ごみ収集や処理工程に使用されるエネルギー削減によるCO₂の排出量も削減され、さらにごみ処理経費の節減につながることになります。

☆地球温暖化防止には私たちの努力も必要

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、「今後20〜30年の温室効果ガス排出削減努力とそれに向けた投資が、より低い安定化濃度の達成に大きな影響を与える。また、排出削減が遅れると甚大な影響を被る恐れが増大する」と、報告書(2007年)で指摘し、私たちの努力が地球温暖化を最小に抑える上で、非常に重要としています。

そのため、CO₂などの排出量を抑制するために、私たち一人ひとりが地球温暖化防止のための行動に心掛け、実行することが必要となります。もはや地球温暖化は、対岸の火事では済まされない状況に向かっていることを理解する必要があります。

私たちのこれまでの大量消費・大量廃棄の生活スタイルから生じたごみ問題も地球温暖化への影響が大きく、ごみ減量は今すぐ取り組む課題となっています。

